

「京土会女性の会（仮称）」交流会報告

2017年11月10日

松田曜子 (H14, H16, H19)

長岡技術科学大学環境社会基盤工学専攻

このたび、京土会のご支援、ご協力を賜りまして「京土会女性の会（仮称）交流会」を無事に開催することができましたのでご報告申し上げます。

交流会は10月28日（土）の午後、現役の地球系学生が学ぶ京都大学桂キャンパスCクラスターの人融ホールにて開かれました。京土会メーリングリストで卒業生に参加を呼びかけ、また現役の学生にはチラシや先生方から告知をして頂くというご協力も得た結果、登壇をお願いした方々も含め卒業生16名（うち男性3名）、学生13名の総勢29名が参加してくださいました。

第1部座談会ではまず、島田洋子先生（都市環境工学専攻・准教授）から女子学生の研究環境や進路についてお話し頂きました。就職担当もされていた先生によると、昨今の就職傾向に男女差はほとんどなく、学生自身も就職活動において性差を意識することはない印象だということでした。



第1部 座談会トークセッション

このお話を受けて、比較的初期に入学した卒業生のトークセッションでは、土木系教室卒業当時に女子の就職は想定もされていなかったこと、均等法施行後は状況が年々目まぐるしく変わったことなどが話題にあがりました。また、吉田の旧校舎のトイレが暗く怖かったこと、女子トイレがない階もありトイレの近さを重視して研究室を選んだこと、会場となった桂キャンパスの3階にも女性用のお手洗いがなく「悪意のない」意識差がトイレに現れている（！）など、トイレの話題でひとしきり盛り上がりました。

その後、民間（建設会社、コンサルタント）と行政に進まれた30～40代の卒業生3名にこれまでのキャリアと学生へのメッセージを伺いました。卒業生からは、トンネル工事や災害対応の現場勤務をしたり、会社の経営に携わっていたりと充実してキャリアを重ねている様子をお話いただきました。一方で、自分たちの手で子どもを育てつつ



第2部茶話会

仕事を続けるという「ふつう」のロールモデルが見当たらないこと、人事権を持つ世代には子育てをしながらキャリアを積むという経験がないためか、トイレと同様「悪意のない」、しかし過剰な配慮を与られていると感じることもある、などの事情を率直に語ってくださり、学生も熱心に耳を傾けていました。こうした環境を変えるためには、事実の発信と仲間や味方づくりが重要ということでした。



大津会長（中央）と交流会参加者

第2部茶話会は、冒頭に大津宏康京土会会長からご挨拶をいただき、立食形式で卒業生と学生のおしゃべりに花が咲きました。学生には新たなロールモデルと出会う、卒業生には、明るい未来への道筋を見る機会となりました。

現役学生に先輩のキャリアを知ってもらい交流するという当初の目標はある程度果たすことができました。今後は、土木とは違う分野で活躍していたり、子育てに専念している卒業生の方でも気楽に立ち寄れるような親睦の機会もつくっていければ良いと感じました。

開催に際しご支援、ご助言を頂いた京土会、および教室の各先生に心よりお礼を申し上げます。また、次回に向けて、早々に準備を開始するとともに、継続して開催できる体制の構築も目指します。今後ともどうぞご指導、ご支援、ご協力をいただきたく、お願いを申し上げます。

発起人一同 山田菊子 (H1, H3) / 松田曜子 (H14, H16, H19) / 澤田茉伊 (H18, H20, H28)